

New IS-LM

このノートでは教科書 62 ページ~を解説する。手書きで失礼。また、手書きノートの日付は3年前のままになっているので注意。

モデルの特徴

- (1) 家計は forward looking である。
  - (2) 貨幣が入っている (実質値と名目値を区別する必要)
  - (3) 独占的競争
  - (4) 名目価格の硬直性 (粘着性)
- 貨幣は money in utility (MIU)の形で導入される。
  - 家計=企業である (独立自営農民)
  - 家計=企業の数 を 1 と基準化する
  - 各個人は「家計」としては全く同質的(homogeneous)である→均衡では全員同じ消費・労働供給・貨幣需要を行う→「代表的家計」の行動を考えればよい
  - 各個人は「企業」としてはそれぞれが差別化された財を生産している。1つの「ブランド」は特定の1個人しか生産できない。
  - ただし、生産している財の種類のことを除けば、すべての企業は全く同じ (symmetric)である。
  - 家計はすべての「ブランド」に属する財を消費し、そこから効用を得る→あとでみる「Dixit-Stiglitz 型」効用関数で記述される。「ブランド」同士は完全代替ではない。
  - よって各企業は右下がりの需要曲線に直面している。→独占的競争
  - 企業は価格をいつでも自由に設定できるわけではない→名目価格の粘着性 (Calvo 型と呼ばれるモデルを後ほど導入する)
  - 単純化のため、資本ストックは捨象する。